

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ
あかるい家庭を きずきましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる
若い力を のぼしましょう

一中地区市民委員会

亀城

(題字は平田洋香氏)

発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部会 発行日：平成25年10月15日(火)
 事務局：一中地区公民館内 TEL:029-821-0104
 世帯数 8,902戸 人口 19,981人(平成25年9月1日現在一中地区)

今年の二小の夏



一中地区市民委員会
委員 宮越 雄一

今年の夏はどうだろうか。連日の猛暑日、それが当たり前の夏休みとなりました。例年と違うのは、今年度は市内各小学校の全部の普通教室にエアコンが設置されたことです。七月に入ってからあの暑い日の続く学期末に、教室内が過ごしやすく、安心して生活することができました。また、夏休みに入ると、校舎耐震および大規模改修工事が始まりました。学びの広場は四年生と五年生で実施することになりましたが、工事の騒音の中でも教室を閉め切つて学びに集中することができました。これもエアコンのおかげと感謝いたしております。

今や二小の伝統となった合唱団の活動も、体育館での練習のほかに、暑さ対策と工事の関係でエアコンが設置してあるコンピュータ教室等を利用して練習しました。おかげさまで、NHK学校音楽コンクール茨城県大会で小学校の部三年連続金賞という快挙を成し遂げることができました。また、TBS子供音楽コンクールでも最優秀賞を受賞し、共に茨城県を代表して上位の関東甲信越や東日本大会への参加が確定いたしました。

た。子供たちの学習や諸活動を支える学校施設・設備、そして備品等での行政からの支援とともに、各家庭の支えや地域の皆様の見守りの中で子供たちが順調に育ってくれることを願っています。

(筆者は現在土浦第二小学校校長です)



中城天満宮と奉納選書会



一中地区市民委員会
委員 佐藤 陽一

御存じ菅原道真を祀り、学問の神様と知られる中城天満宮の創建がいつなのかは分かりませんが、伝えによると永承六年(一〇五一)源頼義・頼家が奥州阿部頼時征伐に下るときにこの天神様の境内で軍馬を檢閲したと伝えられています。この説から起因している馬市は、江戸時代土屋藩主二代目政直の時には七〇〇

頭以上の取引に成つたと云われています。

学問の神様としては勿論のこと、地域安全・平穏無事等々を祈り、境内を巡る争論、震災などを乗り越えてこんにちを迎えています。また、土浦城址(亀城公園)を中心とする歴史を語る上での貴重な資産の一つとなっております。

中城天満宮方法選書会はおかげ様で今年第八二回を迎えることが出来ました。毎年四月の大祭に合わせて開かれているこの伝統ある選書会には、土浦市立小学校全二〇校の生徒さんから毎年一、一〇〇点を数えるご応募を頂き、市教育委員会の講演のもとに、土浦市、市議会、商工会議所、銀行、商店、医院、地域の皆さん等々に支えられ長年開催されています。審査を終えた作品・作者は表彰式を経て土浦市長賞を始め数々の賞と賞品、参加賞が授与されます。作品は天満宮境内やまちかど蔵(野村)展示場、中城俱樂部店舗等に展示され、また、優秀作品は天満宮社殿横に次回まで一年間張り出されます。



是非、子供たちの力作をご覧ください。
（筆者は現在中央一丁目地区長です）



佐野子紹介



一中地区市民委員会
委員 安達 強

佐野子の満蔵寺には、河童の手のミイラが有ります。言い伝えによると、村人が川で馬を洗っていたところ、河童が馬の尻尾を掴んで悪戯したので、村人が鎌で手を切り落とした。そこに通り掛かった妙沢和尚が、河童を助けた。というものですが、言い伝え通りなら、六百年以上前のミイラという事になります。

現在は、六月第一土曜日に、かっぱ祭りを催し河童の手を公開しております。是非かっぱ祭りにお越し下さい。

また、八月十三日には、「盆綱」という行事があります。藁で作った竜の依代を、手ぬぐいで頬被りした子供達が、墓場で、仏様乗りらっせ、と言って仏様を乗せ、ごうざったごうざった、仏様ごうざったと運んで、仏様おりらっせ、と一軒一軒仏様を降ろして行くのです。この盆綱の姿は、大きな茄子の目玉と、両脇に大きく張り出した角の様なひげ、それに舌を出して、ちよつとユーモラスで、佐野子のお盆には欠かせないものです。

この他にも、昔ながらの伝統を受け継ぐ行事が残っている佐野子ですが、夏には蛍が飛び交い、秋には水田が黄金色に染まり、行事だけでなく、日常の風景が四季折々豊かなのが特徴です。

（筆者は現在佐野子長地区長です）



「ゾーン30」について

一中地区市民委員会
委員 糸賀 清一

今年2月より、幹線道路を除いた文京町と田中一丁目の一部が、土浦警察署管内のモデル地区に指定されました。従来、土浦一中と図書館の間の通りと、シャルマンコーポ前の通りの2ヶ所の道路が30kmに規制されていましたが、この度は町内全域と田中一丁目の一部の通りが対象になりました。町内の道路面には「ゾーン30」とペイントされ、30kmの標識が立ち、ドライバーが見れば30km規制であることがわかります。目的は、当然交通事故を減らすこと、また通学路にて学童の安全確保及び高齢者が安心して散歩ができること等だと思えます。

2月26日の早朝7時から8時の間、警察官・交通安全協会員・文京町と田中一丁目の住民約40〜50名が参加し、文京町2ヶ所にて「ゾーン30」のチラシ等をドライバーに配り、キャンペーンを行いました。

この十数年間をみますと、特にシャルマンコーポ角の交差点は、武道館より来る直線道路に対し、八幡様に抜ける道路は約10度〜15度斜めになる交差点です。道幅も同程度で、直線道路側に一時停止の標識です。年に2〜3度は車同士の事故が発生しており、現在は交差点内に点滅の

信号がありますが、それでも事故は絶えませんでした。一時停止を怠ったためだと思います。

人身事故が起きなかつたことが幸いでしたが双方が30kmに規制されてからは今のところ事故がなくなりました。施行されて約半年が経過しましたが、物損事故・人身事故等がありません。一定の効果があつたのではないかと思います。私自身も運転中、30km規制の標識を見たときに一瞬車のメーターを見て減速する次第です。多くのドライバースも減速しているのではないでしょう。

今後、「ゾーン30」が小中学校付近を中心に増えてくることになるでしょう。ドライバースの皆さんの一瞬の油断が、加害者になることを肝に命じて運転してください。

（筆者は現在文京町地区長です）

市民委員会

専門部の活動

スポーツ健康部の活動

カラダも動かすココロも動かす

部長 古徳 洋一

市民委員会スポーツ健康部では、前年度に引き続き、いろいろなスポーツを体験できる教室を七月に開催しました。

種目としては、ノルディックウォーキング、グラウンドゴルフ、バドミントン、ヨット、サッカー、貯筋運動の六

種目で募集し、そのうちヨットとサッカークーは応募がなかったので四種目の教室開催となりました。

スポーツと言うわけではありませんが、貯筋運動というのは、自宅で簡単に実施できる中高齢者向けの筋力トレーニングであり、メタボリックシンドロームに加え、ロコモティブシンドロームに注意が必要とされる。昨今において健康のために有用な運動の一つであると考えられます。「貯筋」とは筋肉を貯めておくという意味です。

お金の貯金は、使えば無くなってしまいますが、筋肉の「貯筋」は、使えば使うほど貯まっています。

逆に使わないとどんどん無くなっていくと言うわけです。

スポーツ、運動に限らず日常生活の中でも可能な限り、身体を動かすように心がけたいものです。

そして身体を動かすことが、きっかけとなり、心も動いて地域のみんなが生き生きと暮らしていければ良いなあと思います。

さて、話は変わりますが、今年の八坂祭礼で中央一丁目は当番町であったため笠揃えを含めて四日間山車を引きました。

その四日間の歩数は、一日平均約一万六千歩になっていました。

ウォーキングの習慣がない自分にとっては驚異的な数字です。本当にお疲れさまでした。



福祉部の活動

福祉部の活動

部長 加藤 千枝

福祉部では本年度の事業として、一傾聴ボランティア。二福祉施設の見学。三公民館祭りへの協力。四地域での声かけ運動を計画しました。傾聴ボランティアは滝の園で年に3回行われ、1回目7月に終了しました。昨年までは年1回でしたが、毎回好評のため多くの部員に体験してもらった様子3回行う事としました。施設で暮らす高齢者何人かの話を一時間半ほど聴くのですが、中身は実に多様で老いを迎えてなお周りへの心配りを忘れない人、寡黙な人、その時の感情をそのまま話す人と様々ですが、誰もが何人かに話してみたい事があるのを感じるし、多くの人の話を聴くことで生きる事の重さや学ぶ事のできる意味深い活動だと思

います。

福祉施設の見学は、9月に茨城県立リハビリテーションセンターでの研修を実施します。現在福祉部員は各町内より五十余名が選出されています。全員が各事業に参加する事が望ましいのですが、人数等の制限もあり困難です。そこで、誰でもどこでも出来る声掛け運動は重要な活動だと思えます。声を掛け合う事によって地域の人々との距離が近づき、多くの人と話をする事で地域の実情を把握し、地域社会から孤立する人をなくする手助けが出来る活動だと思えます。

今後は、地域社会福祉に関する講演会の開催や認知症ボランティア講座、手話講座等活動の場を広げていくことを目標に行けたらと思っています。

みんなの広場

思いつくままに

東崎町 犬山 京子

◎つくばから土浦市に住所を移して二十五年、マンションの十二階から望む遠くに富士山、浅間山、筑波山と眺望の良さ、すぐ近くにある霞ヶ浦も大きな魅力の一つでした。職場は少し遠くなりましたが駅に近いこと何より落ち着いた町の佇いも好ましく思いました。

初筑波乙女のルージユの形して秋の湖こは神風発つところ
帆曳船秋夕焼けにあずけおく

◎この地に暮らし快適な毎日ですが、時は流れ大型店の進出によるシャッター街の増えた事は淋しい限りです。

歴史あるこの町には専門店(鮮魚・生花・和菓子・コーヒー・鰻節店他)も多く、こだわりの品質と人柄には安心感を覚えます。

江戸崎屋・伊勢屋裏町春長ける
シャッター街抜けて亀城の糸柳

◎平成二十三年三月の東日本大震災の被害は大きく、沢山の蔵の殆どは壊れ町は姿を変えた。現在はかなり修復されたが大きな更地が目立っている。

花八手町はぼつぼつ欠けてゆく
筑波嶺も登山禁止や春の泥
磯節の浜に連呼す「避難せよ」
駅頭に大きな空洞冴えかえる
万緑へやせたる牛のひかれゆく
うかうかと五十四基も海月群れ

◎震災から二年半、今も行方不明者は二、六〇〇人を超え、避難先での暮らしを三十一万以上の人々が余儀なくされている。原発事故の終息にはどれ程の歳月を要するのか見当も

つかない。課題は山積みだが、普通の暮らしに戻る日迄、今の自分に出る事をやらねばとの思いです。

土浦はすてきな町です。この町に楽しく暮らせるように、他の人々にも平和な日々が続くようゆっくりと考え、行動してゆきたいと思う。

はつ夏の原発輸出するなどと

安全の神話は今も半夏生

車窓から学ぶ震災油照り

地も海も核の瓦礫に原爆忌

蟬なかせ声高になる改憲論

福島は桃山盛りに震度3

極暑なお真白き闇を汚染水

舌足らずの俳句で失礼いたしました。

予科練の悲劇も忘れない

田中一丁目 齋藤 岑生

先日、初めて阿見町にある「予科練平和記念館」に行つて参りました。残された写真、遺品、映像などで改めて予科練の歴史、意義、悲惨さについて感慨深く思い直させられました。毎年六月二十三日には「沖縄全戦没者追悼式」が行われ、八月になると戦争や原爆の悲劇についてメディアが大きく取り上げられますが、土浦市民の身近な予科練の存在すら記憶から遠のきつつあります。

昭和五年六月一日「海軍飛行練習生制度」が発足した当初は、高等小

学校終了以上の学力を持つ満十五歳以上十七歳未満で学力・体力ともに優秀な少年を飛行兵として採用し、厳しい教育訓練課程を経て海軍航空隊の中堅幹部に育てる目的でした。ちなみに初年度は志願者五八〇七名の中から七九名だけが選出される程の難関で横須賀海軍航空隊に入隊されました。

その後昭和十四年に霞ヶ浦湖畔に移転、戦局の緊迫化によつて全国十九ヶ所に設置され短期・大量養成が始まり意義も変わつて行きました。話は前後しますが、昭和十二年七月七日、日中戦争に突入、同年八月十五日、九州大村基地を発進、折からの暴風雨を突いて東シナ海を飛び越え首都であった南京の軍事施設を爆撃しました。当時は大編隊で海を渡る事は世界航空史に例が無かつたようです。この中には予科練出身者も参加していたので予科練の声が高まりました。

太平洋戦争中、私は国民学校（現小学校）の生徒で四年生で東京から土浦に縁故疎開して来ました。戦中の市内では予科練生をよく見かけましたし、若鷺の歌の軍歌は全国的に人気なものでしたし戦後にも長く愛唱されたものです。

しかし、皆さんもご承知の通り物量に勝る連合国に日本軍は切迫して来て、ついに海軍航空隊は必死必中の特別航空隊（特攻）を結成し爆弾

もろとも敵艦に体当たりする作戦に出ました。更には人間魚雷など爆弾を抱えて敵艦に体当たりするなど予科練を巻き込んで空と海から一体となつて戦つたのです。当時の予科練生の写真や映像を観る限りでは、未だ幼さが感じられます。もう戦争は御免です。そして是非、予科練の事を忘れないで下さい。



「エッ 仕立代そんなにしたの？」
ボランティア活動室での出来事。古布の大島紬のベストを着て来た人に話題集中。其の位なら教えてあげられるからの一言で集まった仲間達。最初は、亡くなられた祖父の形見だと頂いた大島紬の着物を、皆で分け合つてベストに仕立てた。

これがなかなかの好評で、今迄箆の中で眠っていた思い出の着物、両親が嫁入り前に買って持たせてくれた物等、リフォームしたい物は沢山有りそうだ。処分する事も出来ず悩みは皆同じ。時代も変わり、子供達は見向きもしてくれない。箆等事捨てられたという話も聞いた事がある。今なら何とか出来ると、皆の目も輝き出した。其の後、次から次へと各自のアイデアの素晴らしい事。

良き指導者に恵まれ、婦人雑誌のデザインを参考に型紙取りからの出

発。本格的である。今まで出来上がった作品の数々は限りなく、公民館祭りにも出品。各自出来上がった作品に感激し、又、批評し合いながらの作品に喜びもひとしお。残った生地も少しの無駄もなく、黄ばんでしまった裏地はタマネギの皮を煮出して染め上げ、赤紫蘇で染めたシルク地のブラウスも光沢があり、とても素晴らしい出来上がり。既製品が豊富に出回っている時代だが、今迄作つた作品の活用では、黒の絵羽織はロングドレスに仕立て、祝い事の席やカラオケの発表会等に利用したとか、ピンクの無地の着物はジャケット風にして、遠方の結婚式に利用して褒められたとか、自分だけのオリジナルにご満悦な皆さん。

テイタイムも賑やかで、「早く仕上げないとサイズが合わなくなってしまうわよ」、なんて言われながらも、とても和やかな雰囲気のある教室である。

何時の間にか話が伝わったのだらうか、高齢者の女性より昔買って置いたという反物が届けられた。長年大切にしていた気持ちの思い、ジャケットと帽子に仕立て、届けてあげた事もあった。まだまだ箆の中は込み合っている様だ。それぞれどんな作品に生まれ変わるのか、まだまだ楽しくと元気を分け合う会員達。

昨年と今年世界遺産候補の富岡製糸場に研修旅行に出かけた。其の時

の事、片隅で蚕の幼虫が、無心に与えられた桑の葉を食べている様子に、生命をかけて作り出した繭を奪って居るのだと改めて感じ、少しの無駄も出しては申し訳ないと思いつつ、追い駆けて来る老化現象から少しでも逃げているつもりで今日此の頃である。

同好会だより
ハワイアンキルトの会
 会長 高口喜代子

毎月2回、第一、第三金曜日の一時〜三時半まで、藤田歌子先生を中心に楽しく和気あいあいと活動しています。

「キルト教室」なんて言うと、難しい課題に取り組まなくてはならないのかなあ? 全員同じ課題かなあ? ついていけないかなあ? などと、少々心配される方がいらつしやるかもしれません、このキルトの会は、ぜんぜんそんなことはありません。

各自、自分の好きな課題、作りたいた作品を、仕上げの期限などなく、自分のレベルやペースに合わせて自由に作っています。

歌子先生は、常に優しく質問に答えてくださるので、分からないことがあつたら安心して聞くことができます。それから、何と云っても歌子先生はセンスが抜群なので、色の組み合わせや配置など、いろいろと学

ぶところがあります。また、先生のオリジナル型紙も多数あるので、それに挑戦しています。

ただ、年一回の秋の作品発表会に向けて、皆で取り組むことがあり、今は、今年の課題の「刺繍」に取り組んでいます。それをやりながら、自由に自分の作品も進めています。

今まで製作した作品は様々で、大型のタペストリーやクッション、各種バック類、ベビーキルト、ティッシュBOXケース、メガネケース、ペンケース、鍋しき等々、おもしろい作品を作りました。出来上がった時の達成感は何とも言えません。会の仲間達も、めっちゃめちゃ褒めてくれます。

また、年一回の食事会(ランチ会)も楽しみの一つです。

どなたでも参加自由ですので、一緒に楽しみましょう。見学も自由にできますので、どうぞ、いらしてくださいね。お待ちしております。



《短歌》

いまを咲く桔梗の白さつきぎをはや綻びむとてふくよかな白

東崎町 荒木富美子

秋ごとに老を深める心地してカレンダーは雪の桂離宮

田中一丁目 井上 寛江

運命の一折れとはいかず震災の惨ふかくして繁吹く秋雨

生田町 金丸 玉貴

星がたの口を開けたる無花果の傷みやすきはわが心かも

中央二丁目 櫻井 雅江

さはさはと揺るる芒の葉のうらに魂あるごとく空蟬とまる

大和町 瀬古澤和子

桜町二丁目 さくら俳句会
五月、七月の句会作品

忘れられ錆びた風鈴風まかせ

荒木小夜子

対岸の空にも今朝は鯉のぼり

糸賀 孝雄

被災地に手づくりの鯉泳ぎけり

田口よし子

幼なき日落ちた青梅おままごと

根本さた子

若人の旅立つ背なに青葉風

深谷 由子

山門を入れれば紫陽花目にしみる

矢野 澄枝

団扇手に子供が仕切る相撲かな

矢野惣四郎

みそつ齒の子に縫いあげる花浴衣

若松 明子

水色のネクタイ口髭夏講座

藤川 祐子

公民館だより

館長 磯原 直行

今年の四月に赴任して、半年が過ぎました。

初めて臨んだ公民館の仕事で、どうなることかと自分自身心配していたのですが、地域の皆様の温かい気持ちに支えられ、市民委員会の活動や公民館活動に対し、皆様のご指導、ご支援により、何とかここまで円滑に進んで来ることができました。

これからも、地域のコミュニケーションの拠点として、おおいに使っていただき、皆様の来やすい公民館をめざして、職員一同頑張りますので、よろしくお願いいたします。



(一中地区公民館職員)

公民館前期講座(六月～九月実施済)

- 趣味のアクセサリーづくり
- 絵手紙入門
- 知つとくと安心なるほど講座
- ボールペン講座
- 癒しの空間づくり
- 茶道を楽しむ
- 骨盤エクササイズ・ヨガ

公民館後期講座(十月～十二月実施予定)

- 楽しい和菓子づくり
- やさしい水中運動で健康増進
- 江戸しぐさに学ぶ茨城しぐさ運動
- アートを楽しもう
- トラブル英会話入門
- リラククスヨガ
- オーストラリア・プリザードフラワー

一中地区公民館での二十五年度の講座内容ですが、来年度も更に充実した内容で皆様方の多くの参加をお待ちしております。

(なお、平成二十五年度講座申込は締め切りました。)

市民委員会

市民委員会先導のもと、専門部員さんのご協力により平成二十五年度の各部署事業計画は次のとおり実施されます。(一部実施済も含む)

○福祉部

福祉施設への傾聴ボランティア参加
声かけ運動の実施

福祉施設視察研修

公民館まつりへの協力参加

○安全部

救急救命講習会(AED)視察研修

公民館まつりへの協力参加

○スポーツ健康部

スポーツ健康教室への参加
バスハイキングの実施

一中地区体育協会への協力参加

公民館まつりへの協力参加

○環境部

花いっぱい運動への参加
花火大会後の清掃活動

ポイ捨て防止ポスター作成依頼
環境施設見学研修

公民館まつりへの協力参加

○文化広報部

広報紙(亀城)の発行(二回)
協働まちづくりシンポジウム

ポスターセッションの作成

公民館まつりへの協力参加

○青少年育成部

チャレンジクラブ事業の実施
公民館まつりへの協力参加

公民館まつり

第二十回一中地区公民館まつりが十一月十七日に開催決定いたしました。公民館まつり実行委員さんをはじめ、ボランティアの方々による運営そして多くの方々の参加協力により今年も出あい・ふれあい・学びあ

をテーマに芸能大会、小中学生・同好会の作品展、模擬店、市民委員会各部会、その他多数の出し物等、楽しく充実した内容で皆様方のご来館をお待ちしております。



編集後記

今年の夏は例年になく厳しい猛暑が続き熱中症等健康被害が発生いたしました。皆様方にはお元氣にお過ごしのことと思います。

「亀城」二十五号ができましたのでお届けいたします。

今回は市民委員会の方々や小学校長先生の寄稿、みんなの広場、専門部同好会からの活動状況などご寄稿頂き充実した内容となりました。

ご寄稿いただきました皆様方には編集委員一同より感謝申し上げます。



(今回の編集に携わった方々)

- 岡部恒文 桜井昌子 齊藤岑生
- 大槻正義 犬山京子 渡部敬三
- 新井幸男